

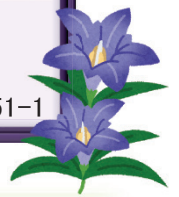
# 同窓会会報

高知県立大学看護学部

第21号

令和2年10月26日発行

〒781-8515 高知市池2751-1



## ごあいさつ

## 同窓会会長 梶原和歌



空に風に秋の気配をやっと感じる季節を迎えました。同窓生の皆さまお元気でしょうか。7月18日に予定しておりました今年の看護学部同窓会総会と懇親会は新型コロナウイルス感染症のために中止とさせていただきます、申し訳ございませんでした。総会の議事内容を書面開催でご検討いただきましたところ、令和2年度の事業計画案、予算案につきまして、賛成のご返信を多数いただきましてありがとうございました。

大学の行事も感染拡大防止の観点から、卒業式・修了式・入学式は通常の形で開催できず、前代未聞の状況で推移したようです。4月からの授業もオンライン授業となり、6月後半からやっと対面式での授業が可能になったとうかがっています。学生に対する先生方のご苦労も大変なようで、実習中は特に健康チェックや状況把握に気を使われています。同窓会では今年新たに「給付型特別奨学金」の制度を設けました。アルバイトが不可能になった方、親の経済状況が急変した方々への経済的支援です。従来の「緊急奨学金貸与」も継続しておりますので困ったときの“同窓会”として脳裏に置いてください。

第46回高知女子大学看護学会が中止になったことも卒業生にとって残念でした。伝統あるこの学会の特別講演でアカデミックなトピックに触れ、ワークショップをのぞき刺激を受け、夜は同窓会懇親会で恩師や同窓生と乾杯することが楽しみでした。しかし、私達はこのパンデミックとなったコロナ危機から多くの事を学んだと思います。人間の生活様式による地球温暖化や環境破壊を容認してきたことが生態系を壊し、動物がもっているウイルスが人間に移ったこと。国により危機対応や医療体制のレベルが異なり日頃の社会保障や制度の貧困さが追い打ちをかけていること。特に、日本では地域医療構想や医療費削減と効率至上主義があらゆる組織にまん延してベッドも人も保健所も余裕のない状況が積み重なってきたこと。多くの国民の防御意識は高く協力的であったこと。経済的に逼迫した経営者や失業者の持続的な対策が必要な事を考えました。

乳児診察で医師・看護師の感染が報道された医療センターの皆様にはその献身に心から感謝申し上げたいと思います。人と接し息づかいや体温を感じ、心に寄り添うケアや防護装備をまとってのケアの厳しさを乗り越えて、私達の同窓生は頑張っていることでしょう。来年の今頃はお互いに健康で一回り成長して再会できますことを念じております。

## 主な内容

- ①ごあいさつ
- ②災害への取り組み
- ③ようこそ先輩！
- ④活躍する卒業生
- ⑤令和2年度同窓会総会報告
- ⑥看護学部は今
- ⑦第25回日本在宅ケア学会学術集会





# 災害への取り組み 新型コロナウイルス感染症予防対策 についての取り組み

災害と健康は、規模、被害の種類、季節、被災した土地柄、得られた支援などによって変わってきます。例えば、地震の場合は短時間のうちに人々が避難所に避難されることになります。その人たちは、倒壊した建物が当たるなどして、けがをされているかもしれません。一方で、台風や豪雨水害はまず天気予報などで確認しつつ、危険が迫り、早めに避難していたほうが安心だと考える人と、家が浸水しかけて命からがら逃げてる人など様々であり、浸水したエリア外に人口密度が偏り、避難所が足りないという特徴があります。感染症が流行している状況で自然災害が起きることもあるし、衛生環境の悪化や人口密度や季節柄で感染症が流行することもあります。その時点で想定される感染者の数や地域の流行している場所の推移やわかっている感染経路や人口密度によってもその被害の大きさは変わってきます。

2020年初春ころより、COVID-19の感染拡大防止策として、人が集まらないこと、人が接触しないことを基本とした行動、生活様式が求められています。しかし、これまでの地域防災の対応をみると、地域住民による見守りと避難行動支援、人口密度の高い避難所の設置、多数の支援者の力を借りての復旧復興作業など、人が集まること、人が接触することが前提となっている。これに対して今までとは違う危機管理や活動計画が必要となる。できるだけ大勢の人と会うのを避けること、他の人との距離を約2m保つこと、マスクをすること、こまめに室内の換気をすること、人とのものの受け渡しを避けること、共用部分にできるだけ触らないこと、触る前後は手洗いや消毒を徹底すること、などの基本的な事項をできるだけ可能にする環境を作るほかない。その中でそれぞれが感染しているかもしれない中でこれ以上拡がらないようにと、精神的な不安を乗り越え社会的に助け合い続けることが重要となります。

その場に応じた最善策として、基本的な予防法を可能にする環境を作り、それぞれが感染の可能性を否定せず、これ以上拡がらないように、精神的な不安を乗り越え社会的に助け合い続けることしかできません。例えば、感染リスク低減、プライバシーを考えると、平時からともに生活している家族ごとに距離が保てていることが望ましいが、実際は、感染者が出た場合も影響を軽減するためゾーンに分け、その中で基本的なライフラインすなわち、トイレ、電気・ガス・水道・通信(Wi-Fi環境)などを確保し、各ゾーンは完全に分離、ゾーンを越えて相互に接触しないよう、導線が交わらないようにするのが理想だと思います。



## 災害への取り組み 新型コロナウイルス感染症予防対策 についての取り組み

特に近年では、オンライン環境の確保は、感染症予防、孤立防止、効率的な生活再建を自主的に行うためのコミュニケーションのために必須といえます。その中で、感染者が確認された場合には、避難者が他の避難所に移動するのではなく、濃厚接触者・経過観察者に他に移動してもらうことで、移動先の避難所でクラスター発生を防ぐことができる。ゾーン間の連絡や情報共有、避難者への周知や、避難者同士のやりとりなどの飛躍的な改善にもつながります。

地区住民だけでなく、帰宅困難者、(勤務先や外出先等で災害に遭遇し、自宅への帰還が困難になった者)や在宅避難者(被災者の中で「避難所に居場所を確保できず、やむを得ず被災した自宅に戻って避難生活を送っている者」、もしくは「ライフライン等が途絶した中で不自由な生活を送っている者」)の対応拠点にもなることも忘れてはなりません。

グローバル化する社会、多様化する個人の生活、年代によって違う価値観の中で、新しい生活様式が必要となる中でどのような災害がおき、人々がどのように避難行動の意思決定をとれるか、ますます予測しにくくなってきました。市民一人一人が、今住んだり、出かけたりする先の災害危険度に関心を持ち、そのなかで、自立生活ができているか、介護や支援が必要か、車の運転はできるか、などの状況によって、自分にとって安心して衛生的な避難先(親戚・知人宅、車、宿泊施設、指定避難場所)を考えて、持って行くものなどを、自分や家族と決め、災害時には、名前・所属・血液型などのほか、持病や、アレルギーなど「配慮が必要なこと」、コンタクトレンズ、薬、こどもの衣類などの「生活必需品」、発災直後の「生活ニーズ」を見える化しながら意思決定をし、環境を整えることから、最終的に包摂的な災害対応となるボトムアップアプローチが必要であり、ますます地域で看護職が災害や感染症に対する突破力をつけることが求められています。

(災害看護学・国際看護学教授 神原咲子)





## 災害への取り組み 災害現場での活動

令和2年7月3～4日未明にかけて九州南部を中心に降った豪雨によって甚大な被害が出ました。私はピースウィンズ・ジャパン(本部:広島県)の医療チームの一員として発災当日にヘリコプターで熊本県に支援に入りました。被災地域上空から現場を確認すると、球磨川沿いの道路や家が浸水している様子をすぐに確認することができ、緊急かつ中長期的な支援が必要であると感じました。今回、私たちは7月4日～15日(計12日)にかけて現地での活動を実施し、主に行った活動は救助・捜索活動、救出された住民の健康状態の確認、孤立地域での巡回診療、2次避難所開設に伴う避難所開設・運営支援、物資支援等を行いました。その様子を各写真ごとに少しお伝えしたいと思います。



救助された高齢者の健康状態の確認を実施

7月6日に急遽、2次避難のための避難所を村外に開設することになり、避難者の受け入れ準備を行いました。熊本県や保健所、球磨村などさまざまな立場の方々や活動するのは難しく感じましたが、細かく時間を区切りながらできていること、取り組まないといけないことを明確にし、一つひとつ課題をクリアしながら約120名の避難者の受け入れを実施しました。避難者の中には在宅酸素を付けた人や体の不自由な高齢者も複数おり、被災し、ケアが途切れると生活の継続が困難になることを改めて痛感しました。しかし、近所の方が見守りやトイレ介助や買い物代行などを自発的に行い、地域のコミュニティーがしっかりしていることを肌身で感じました。新型コロナウイルス感染症への対策も必須であり、保健所等とも協力しながら対策を進めました。



孤立した集落へ向かう道中の様子

私たちは最初に被害が大きいという情報が入った球磨村総合運動公園(さくらドーム)に向かいました。到着して驚いたのは、壁のない屋根だけの施設で、土の上にブルーシートを敷いたところに多くの避難者が避難していたことです。そして、14人が犠牲になった特別養護老人ホーム「千寿園」から多数の高齢者が救助され、病院に搬送されるのを待っていました。私は一人ひとり体調に変化がないかを確認して回り、救急車に乗せ、何とか大きなトラブルなく搬出を終えました。

しかし、この避難所にはまだ300名程が避難していました。生活を継続するには厳しい環境であったため、避難所アセスメントシートの記載や行政関係者への働きかけなどを行い、2次避難を行う準備を一緒に進めていきました。



地域の子どもたちと協力しながら物資を搬入

また、私たちは道路の寸断により孤立集落となっていた神瀬地区にも健康状態の確認に向かいました。途中まで車で向かい、そこから土砂や倒木の合間を縫って1.5km程歩いて何とか120名が避難する神瀬保育園に到着しました。すぐに診察を開始しましたが、診察希望者の多くは薬の内服ができていないということでした。薬は水に流されてしまい、数日に渡って内服できなかった住民もあり、異常高値を示す人には緊急的に処方を行いました。翌日には孤立が解消され、別の避難所に全員移動されましたが、十分な食料やライフラインもない中での避難生活は想像を超えるものであったことが避難者との話や表情からも伝わってきました。

(共同災害看護学専攻 博士課程 佐々木康介さん)



# ようこそ先輩！



津島 ひろ江先生 (14期生)  
関西福祉大学名誉教授

—母校を誇りにして歩いて—

「ご出身は？あーあの日本初の看護大学ですか」この言葉は、高知女子大学を卒業して以来、52年間誇りにしてきたことです。私の長い教員生活は、高等学校での勤務からスタートし、次に短期大学、大学、大学院前期課程、後期課程へと対象となる学生は変わり、まさに我が国の看護教育の発展過程を背景にして、養成教育や研究に関わらせていただきました。高知県発の看護系大学が今では270校を超えまだまだ新設が予測されています。新設大学・大学院には必ずと言っていいほど高知女子大学の卒業生が中核的な役割を果たしておられました。そのネットワークは大学教育だけでなく、行政・看護協会・学術研究学会・養成協議会の代表へと活躍の場は広がっています。1952年の開学に向けてご尽力くださいました和井兼尾先生たちは予測しておられたのだろうかと思ひ出すことがあります。私の学生時代は瀬戸大橋のなき時代で宇高連絡船に乗って渡り、山の中を電車で高知に向かう時は寂しい思いをしましたが高知に着くと同級生と夜な夜な熱く語り合ったり、時には先生のお宅や研究室に押しかけたりしたこともありました。自信のない私を引っ張って、いろいろな経験をさせてくれ、前向きにしてくれた同級生に感謝しています。

最後に、私のキャリア形成について述べたいと思います。2人の娘が大学院へ進学する頃、私も50歳前後に学生になり、修士、博士の学位を取得しました。看護師・専門看護師・保健師・助産師・養護教諭の申請業務と養成、研究学会理事、養成協議会の理事等を経験して、多くの人との出会いがありました。その中の一つである養護教諭養成については、養護教諭養成協議会の運営、看護能力のある養護教諭をめざし、博士前期・後期課程に学校看護学分野を担当してきたこと、学術集会の開催、教科書の編集、「養護教諭の語りをつなぐ養護塾」の開催等を振り返ってみると、高知女子大学に原点があるように思います。それは4年制大学での養護教諭養成も高知女子大学が発祥の地です。これからも高知県立大学から研究や養成について発信し続けてくださることを祈念いたしております。



日本家族看護学会 第21回学術集会 ゆらぐ家族の意思決定を支える看護 2014年8月9日 於 川崎医療福祉大学



写真：日本家族看護学会第21回学術集会実行委員と共に(川崎医療福祉大学・川崎学園)

看護士課程で養成する  
養護教諭のコアコンピテンシー  
卒業時到達目標

姫路市令和2年度第1回養護教諭研修  
養護教諭に期待される役割と  
コーディネーション能力

関西福祉大学大学 名誉教授  
津島 ひろ江

第59回日本学校保健学会 自由集會

看護系大学における  
養護教諭養成カリキュラムの充実化に向けて

世話人 荒木田美香子(国際医療福祉大学),  
津島ひろ江(川崎医療福祉大学),  
池添 志乃(高知県立大学),  
櫻田 淳(埼玉県立大学)

平成29年11月24日  
櫻井利由(日本看護学会) 高橋由紀(看護教育研究委員会)



# ようこそ先輩！



深井 喜代子先生 (36期生)  
東京慈恵医科大学医学部看護学科 教授

この度、母校、高知女子大学同窓会様からのご依頼を受け、不肖ながら、卒業生として一筆書かせていただくことになりました。女子大時代の思い出を辿りながら、小職が今、看護学の教育・研究者として在ることの必然と意味を振り返りたいと存じます。

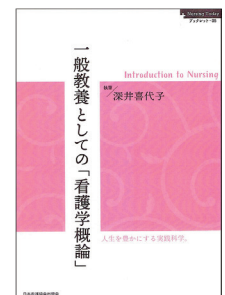
私どもはもともと医大助手として神経生理学研究に従事していましたが、三十路を過ぎたころ縁あって高知女子大学の看護学科に入学し、人生で2回目の大学生活を送ることになりました。看護学科で初めての他大学卒の新生入生だったそうで、先生方や事務局の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。クラス担任の先生とは同じ年、クラスメートとは一回り以上も歳上でしたが、親しく接してもらい、何より未知の学問であった看護学を興味深く、楽しく学ぶことが出来た4年間でした。私どもの人生の転機を無事に通過し、今日あるのは母校のお陰、感謝の言葉もございません。

日本初の4年制大学での看護学教育を高知県が始めたことの意義がどれほど大きいものか、地元の方は気づきにくいかもしれませんが、わが国の看護界への多大な貢献はもちろん、他ならぬ女子大で看護学を学ぶことが出来たことは、学生にとっても大きな幸運でした。例えば、私どもは1990年代に看護学生時代を送ったのですが、ユニフォームを着て臨む臨地実習は、緊張はするものの、集大成の科目として非常に充実した、一番楽しみな科目でした。臨地ではどこもウエルカムで教育的、女子大生に対するリスペクトさえ感じるがありました。高知県内の看護職の多くが女子大卒(四大教育を受けたナース)で、さらに保健医療関係機関のトップも女子大OBが占めていたのではないのでしょうか。卒業して教職に就きましたが、今もって耳にするのはそれとは真逆の現状(実習場所に対する学生の過剰な不安)ばかりなのです。

質の高い看護教育で優秀な看護職を育ててきた実績が県内隅々に浸透し、「医者の手伝い」ではなく、「主体性のある医療専門職」として、高知県では看護職が一定の地位を確立していたようにみえました。地元出身の先生の一人から「大学受験のとき、教師、薬剤師、看護師のどの道に進むか迷った」と聞いて、少なくとも西日本の他県では(看護大学が1校も無かった時代だったので)「看護師」という選択肢はあり得ないと驚いたものでした。

女子大を誇りに思うエピソードは数え切れませんが、もう一つ挙げるとすれば、看護学科の教員が“医学生に「看護学概論」を講義している”ということでした。医療の最前線でもに不可欠な専門職が、互いの学問と社会的役割について基礎教育で学ぶことは当然だと、誰もが思うことでしょう。しかしながら、私が医大教員時代には、「看護系の教員が医学生に講義する」などという発想自体が、双方になかったと思います。もちろん、看護学教育の四大化、大学院が劇的に進んだ現在でも、そうした例は少ないのではないのでしょうか。岡山大学に着任して3年目、専攻長をしていたあるとき、医学科の学生に「僕は看護師さんがどんな仕事をするのか全然知らないので教えてください」と尋ねられハッとしたのを覚えています。早速、分厚い自編著(基礎看護学のテキスト)を送り届けたところ、医学生から「数人で貪るように読んで、看護のことがよく分かりました」と礼状が届きました。ただ、大学は動く気配もなかったで、それっきりでした…。

最後に、手前味噌で恐縮なのですが、新刊の拙著を紹介させていただきたく思います。タイトルこそ『一般教養としての看護学概論』としていますが、小職の看護学のルーツである高知女子大学での体験や思い出が処々に出てくる小冊子だからです。社会人になってから看護学を学んだ私ごときがではありますが、岡山大学ではルーツの生理学のほかに、基礎看護学(ケア技術学)、そして退職教授のあとを継いで「看護学原論」を担当しておりました。幸運にも女子大で看護学の基礎を学ばせていただいたからには、入学したての学生が希望と期待を持てるように看護学の入り口を紹介しようと努力しました。そして、その概論の講義を担当するうちに、次第に、「世の中の人々は皆、看護(学)のエッセンスを学ぶべきだ」という考えに至ったのでした。拙著はその想いを込めて書き上げたものです。女子大OBの方々や、高知ご出身の皆様にもご一読いただけたら幸甚でございます。



左上: ミャンマーの国費留学生(博士後期課程)が贈ってくれた(画家の方が描いた)肖像画  
右下著書: 深井喜代子: 一般教養としての「看護学概論」、日本看護協会出版会、2020年



## 活躍する卒業生

### 井上 加奈子さん (学部49期生、修士13期生) 社会医療法人仁生会細木病院在宅部

皆さん、こんにちは。私は高知女子大学看護学部看護学科卒業(49期生)後、芸西病院・訪問看護ステーションげいせいにて勤務しました。平成24年高知県立大学大学院看護学研究科を修了(13期生)後、現社会医療法人仁生会細木病院在宅部に就職しました。平成26年に在宅看護専門看護師認定資格を取得し、現在は訪問看護ステーションでの訪問看護活動や在宅部の教育を担っています。

当院在宅部には約170名の職員が所属しており、訪問看護事業所、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、訪問リハビリテーション事業所、地域密着型通所介護事業所、通所リハビリテーション事業所、認知症対応型通所介護事業所、認知症対応型生活共同介護(グループホーム)、障害福祉サービス事業所(グループホーム)、サービス付き高齢者向け住宅があります。高知市からの委託を受けた地域包括支援センターもあります。地域住民の方々が気軽に介護相談できる場としてまっことネット細木も運営し、地域住民の方が主体となって開催しているいきいき百歳体操や子育て広場の開催の場の提供や地域住民の方を対象とした介護相談への対応や防災教室、生け花教室等も行っています。また、まっこと出前講座として、介護保険や認知症予防等のテーマに沿った当院の医師や看護職、介護職、ケアマネジャー等の専門職が地域に出向いて講演等を行う活動も行っています。

昨年より在宅部教育担当として組織横断的に活動できるようになりました。それにより訪問看護以外の在宅サービスの活動を知る機会も増え、これまで自分がいかに在宅のことをほとんど知らなかったということを痛感しています。今まで知らなかった世界を知るにつれ改めて在宅の現場で働くことに魅力を覚え、やりがいを感じています。

卒業後何年経っても高知県立大学の先生方や卒業生の皆様とつながり相談に乗っていただいたり、一緒に活動する機会もあり本当に感謝しています。その環境に甘んじることなく、今後も自らネットワークを広げ在宅ケアの質の向上に貢献できるよう精進して参ります。



### 宮原 慶江さん (50期生) 聖路加国際大学大学院看護学研究科上級実践コース精神看護学

～今が、この先の人生にとって 一番大切な時間なのかもしれない～

大学を卒業し、17年の時が経とうとしています。

在学中にはボストンの姉妹校に留学させていただく機会を持ち、アメリカ医療の素晴らしさに触れることで、その後聖路加国際病院という一つの進路を見据えました。それから今に至るまで、聖路加一筋でやってきました。病院での活動や自分のビジョンについて、ここで少し語らせていただきます。

聖路加には、まっすぐで熱い人が多く集まっています。昨年度は「マグネット認証」という「人を惹きつける病院」の認証を日本で初めて取得しました。そのための活動を何年も前から行っており、私もその活動を担当しています。スタッフのモチベーションを向上させ、スタッフ一人一人の力で魅力的な病院づくりを目指すものです。広報活動やアメリカからの審査員の方々を迎えての大きな審査イベント「site visit」なども経験し、認証を得た今もエネルギッシュな日々を送っています。

そんな中でふと自分の看護師人生に目を向けた時、自分の好きなことを活かして仕事ができたら、という思いも湧いてきたため、精神看護の専門看護師になるべく、聖路加国際大学大学院にて勉強を始めたところです。

日々特に感動していることが、バイブルのように読んでいる数々の本に、わが「高知女子大学」の先生方の名前が載っていることです。名だたる先生方の築かれた礎のもとでご指導を受けていたというありがたさを、今ようやくかみしめています。

この御恩とご縁を一生大切にしていきたいです!!

～学生の皆様へ～

今は、この今過ごす時間の大切さはわからないものです。色々なことに挑戦し、自分を進化させる大切な時間です。ぜひ今のこの時間を一生懸命に生き、今日の前にしているその人を、そのつながりをとても大切にしてください。

それはきっと自分の人生を豊かにさせ、

輝かせてくれるものとなります。

将来の輝く自分を楽しみにしててください。

(写真はマグネット認証審査時の審査室に飾った生け花です)





# 令和2年度 同窓会総会報告

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止と会員皆様の健康と安全面への配慮から、令和2年度と同窓会総会の対面での開催を中止し、文書(議決書)送付による総会とし、議案賛否のお返事をいただく形としました。その結果のご報告を致します。下記の3点の審議事項につきまして、賛成多数にて、承認いただきました。審議などへのご協力、誠にありがとうございました。

## 議事次第

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1) 報告事項         | 2) 審議事項            |
| (1) 令和元年度活動報告   | (1) 令和2年度活動計画案     |
| (2) 令和元年度決算報告   | (2) 令和2年度予算案       |
| (3) 令和元年度会計監査報告 | (3) 令和2年度同窓会役員について |

## 令和2年度活動計画

1. 会議
  - 1) 総会の開催
  - 2) 役員会の開催
2. 事業および活動
  - 1) 講演会の開催(高知女子大学看護学会と共催)
  - 2) 懇親会 ⇒1)、2)開催中止
  - 3) 会報発行
  - 4) 高知女子大学看護学会への活動支援
  - 5) 学生及び同窓生活動への支援
  - 6) 緊急奨学金貸与
  - 7) ネットワーク強化

## 令和元年度活動報告

1. 会議
  - 1) 総会の開催
  - 2) 役員会の開催
2. 事業および活動
  - 1) 講演会の開催(高知女子大学看護学会との共催)  
テーマ:  
「人生百年時代と健康格差—特に「死」の健康格差」  
講師: 高木廣文先生(天使大学 副学長)
  - 2) 懇親会
  - 3) 会報発行
  - 4) 学生支援、同窓生活動支援
  - 5) 高知女子大学看護学会への活動支援
  - 6) 緊急奨学金

\*1:看護学部長  
\*2:看護学会名簿管理係兼

## 同窓会役員名簿(令和2年度)

役員名	氏名	卒業・修了期	所属
会長	梶原和歌	10期生	近森会 顧問
副会長	藤田佐和* <sup>1</sup>	28期生	高知県立大学看護学部
	中野綾美	27期生	高知県立大学看護学部
書記	田鍋雅子	38期生・修士13期生・博士18期生	高知医療センター看護局
	山中福子	修士7期生	高知県立大学看護学部
会計	川上理子	35期生・博士9期生	高知県立大学看護学部
	西内舞里	46期生・修士12期生	高知県立大学看護学部
会計監査	野田真由美	34期生	高知市保健所
	矢野智恵	38期生・修士1期生・博士17期生	高知学園短期大学
庶務	角谷広子	25期生・修士5期生	芸西病院看護部
	池添志乃	34期生・修士2期生・博士1期生	高知県立大学看護学部
	川本美香* <sup>2</sup>	修士13期生・博士18期生	高知県立大学看護学部

## 令和元年度 会計報告

令和元年度 高知県立大学看護学部同窓会決算報告  
(平成31年4月1日～令和元年3月31日)

### 収入の部

費目	予算額	決算額	差引	備考
前年度繰り越し	13,706,835	13,706,835		
令和元年度会費	1,500,000	1,665,000	165,000	新年度学部認定のうち42名(98.8%) 新年度大学院生(前期15名、後期4名)のうち13名納入(86.4%) 前年度まで未納の学部生・大学院生:16名
寄付金	200,000	101,233	△98,767	延べ18名+30年度卒業生一同様
利息	60	60	0	
合計	15,406,895	15,473,128	66,233	

### 支出の部

費目	予算額	決算額	差引	備考
会議費	30,000	22,900	7,100	役員会等
同窓会会報発行費	400,000	420,000	△20,000	会報発行2回
高知女子大学看護学会支援費	300,000	300,000	0	高知女子大学看護学会への活動支援費
同窓会総会・懇親会運営費	100,000	81,000	19,000	会場費、懇親会運営支援費など
学生および同窓生活動支援費	400,000	240,034	159,966	1件10万円以内 ①第6回日本CNS学会抄録集広告掲載料:¥32,400 ②令和元年度看護開発研究会講演会・交通費:¥70,340 ③国際交流(ガシママダマ大学短期入学生)活動支援:¥61,294 ④第31回中西国学校保健学会抄録集広告掲載料:¥30,000
緊急奨学金費	535,800	535,800	0	4回生1名(1年間学費分)貸与
小計	1,765,800	1,599,734	166,066	
役員費	370,000	275,867	94,133	郵送料、切手、はがき代、ホームページ管理費等
印刷費	200,000	41,700	158,300	封筒印刷等
消耗品費	100,000	36,929	63,071	ファイルほか事務用品、A4用紙、宛名シール等
報償費	240,000	162,970	77,030	名簿管理、職業整理、書類発送に関するアルバイト料等
小計	910,000	517,466	392,534	
予備費	12,731,095	120,000	12,611,095	終身会費二重払い返却分
合計	15,406,895	2,237,200	13,169,695	

令和2年度への繰り越し金=収入の決算額 15,473,128円 - 支出の決算額 2,237,200円 = 13,235,928円

### 監査報告書

高知県立大学看護学部同窓会会長 様

監査期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日

監査結果 監査書類並びに諸帳簿を資料として監査を実施した結果、正確かつ適正に処理されていることを認めます。

令和2年7月3日

会計監査

田鍋 雅子  
野田 真由美

令和元年度監査委員である矢野委員より会計監査実施が難しい旨連絡を受け、急遽、会長指名にて書記の田鍋委員が会計監査を行いました。

## 令和2年度 予算案

令和2年度 高知県立大学看護学部同窓会予算案  
(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

### 収入の部

費目	予算額	備考
前年度繰り越し	13,235,928	令和2年度在学生(学部、大学院)の終身会費を含む
令和2年度会費	1,575,000	15,000円×105名=1,575,000円 学部生:82名 大学院生:23名(博士前期課程17名、博士後期課程3名)
寄付金	200,000	1口1,000円×200口
奨学金返済	270,000	令和元年貸与会員:令和2年7月～毎月¥30,000返済予定
利息	60	
収入合計	15,280,988	

### 支出の部

費目	予算額	備考
会議費	30,000	役員会等
同窓会会報発行費	440,000	会報発行2回
高知女子大学看護学会支援費	300,000	高知女子大学看護学会への活動支援費
同窓会総会・懇親会運営費	0	令和2年度同窓会総会・懇親会中止のため
学生および同窓生活動支援費	400,000	1件あたり上限10万円
緊急奨学金費	535,800	
給付型特別奨学金費	3,000,000	令和2年度のみ予算 1件あたり10万円
役員費	370,000	郵送料、切手、はがき代、ホームページ管理費等
印刷費	200,000	封筒印刷等
消耗品費	100,000	ファイルほか事務用品、A4用紙、宛名シール等
報償費	240,000	名簿管理、書類発送に関するアルバイト料等
予備費	9,665,188	
支出合計	15,280,988	

## 看護学部は今

### 新たな授業のかたち・・・総合看護実習の取り組み

コロナ禍で新年度を迎え、看護学部では、新しい授業や実習のかたちで豊かに学びが得られるよう模索が続いています。

### ～地域看護～

今年度の総合看護実習(地域看護)では、地域で暮らす高齢者の事例をもとに、高齢者が暮らす地域の理解、対象者の理解、電話による健康相談の実施、看護計画の立案等について、対面して行う協働学習とオンラインを組み合わせて展開しました。オンライン会議システムを使って行った2つのプログラムを紹介します。健康相談の実施では、対象者のご家族になりきった大学院生を相手に、10分間の電話相談を行いました。学生間でリアルタイムにその様子を共有して、相談終了後に討議を行いました。学生は、緊張しながらも自分で立案した健康相談計画の実施に挑戦したことから、具体的な学びを得たようです。また、倫理実践への学習には、行政の保健師の方による遠隔での臨床講義をいただき、活発に質問を行うという様子もみられました。現地に行くことができないもどかしさを感じながらも、地域に足を運んでこそわかる情報収集、ケアの重要性を学んだようでした。

### ～助産看護～

助産コースでは臨床実習前に周産期の対象への実践を想定し様々な演習を展開しています。しかし今年度は、対面授業が難しい状況となったため、オンライン演習を取り入れました。写真は、産褥期にある対象への助産看護演習の一場面です。オンライン会議システムを活用し、学生と褥婦役の教員で援助場面のロールプレイと、学生全員でのディスカッションを行いました。会議システムでは、画面を通して、相手の表情や言葉により着目することが可能となります。学生はロールプレイ中、五感を研ぎ澄ませ、対象者のその時々への反応を受け止めながら具体的な提案をしようとチャレンジしました。遠隔ではありましたが「対象者の意思を尊重する」「実施する看護について説明する」「根拠に基づいた看護を提供する」ことなど、臨場感をもって学ぶことができたと考えています。





# 看護学部は今

## 1回生クラス会

新型コロナウイルス感染症の拡大防止が必要な状況のなかで、1回生にとっては通常よりも不安や緊張が高い大学生活のスタートとなりました。大学とのやりとりをはじめ、授業を受ける、課題を提出するなどのすべてをオンラインで行うことに戸惑いや難しさを感じている学生もいましたが、疑問や不安などを教員や大学の職員に相談しながら奮闘し、少しずつ主体的に取り組んでいる様子が見られました。

5月に入り、遠隔授業にも少し慣れてきた頃にオンラインでのクラス会を企画、実施しました。クラス会への参加は自由とじていましたが、当日は70名以上の参加がありました。1回目のクラス会のあとのアンケートでは、「クラスの人と話せる時間が欲しい」、「サークルやボランティアのことが知りたい」、「授業の受け方や勉強方法が知りたい」などの意見がありました。また、アンケート結果から、2回目以降の開催のニーズがあることもわかりましたので、これらの学生の意向をふまえてクラス会の内容を検討していきました。

■ オンラインクラス会の様子



■ オンラインクラス会に参加している1回生



■ サークルの活動紹介【イケあい】



■ サークルの活動紹介【健援隊】



2回目以降のクラス会では、新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する大学の取り組みやガイドラインの共有、自然災害・防犯に関する情報提供の他に、サークルやボランティアに取り組んでいる先輩から、魅力や実際の活動について直接お話をさせていただきました。資料や実際の映像なども交えて活動の詳細を聞くことで、それぞれのサークルやボランティアに対するイメージが広がっている様子でした。

また、学生同士が少しでもかかわる機会となるように、オンライン上で5～6人の小グループを作り、教員が入らない状況のなかでクラスメイトと話せる場を提供しました。はじめは緊張してあまり話せない学生もいたようですが、回を重ねるごとにお互いのことを知り、少しずつ話すことができるようになっていきました。

オンラインでのクラス会は、対面授業が始まる6月下旬まで週1回のペースで開催しましたが、通常とは異なる状況のなかでも学生は可能な方法で先輩やクラスメイトとかかわり、仲間と少しずつつながりながら、それぞれのペースで活動範囲を広げる準備をしていました。

# 第25回日本在宅ケア学会学術集会

## ライフ・デザインと多職種協働～主体的な選択を地域で支える仕組みづくりに向けて～

2020年6月27日に第25回日本在宅ケア学会学術集会(学術集会長:高知県立大学看護学部教授 森下安子)を開催しました。今回は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の拡大ならびに緊急事態宣言の発令を受け、会期を短縮し、高知から全国に向けてWeb上でLive配信しました。544名の参加者をweb上にお迎えしてこれまでにない、新たな学術集会を開催することができました。



慶応義塾大学:春田淳志先生に多職種協働に求められる各職種の自立性や俯瞰性について講演していただきました。

学術集会長講演  
主体的な選択を地域・多職種で  
支える仕組みづくり

特別講演 I  
在宅における多職種協働に  
求められる俯瞰的視点

特別講演 II  
いのちの仕舞(しま)い  
—四万十川のほとりの診療所で思うこと—

教育講演 I  
在宅ケアにおける多職種でかかわる服薬管理

教育講演 II  
保健医療福祉研究における  
テキストマイニングの活用

シンポジウム I  
“高知家”の挑戦!人口減少・高齢化  
地域における看取りまで支える  
地域包括ケアに向けた取り組み

シンポジウム II  
“高知家”の提案!災害多発時代における  
多様な個からの総力戦

企業セミナー  
在宅ケアのアウトカム評価方法と  
システム開発および現場での利用方法

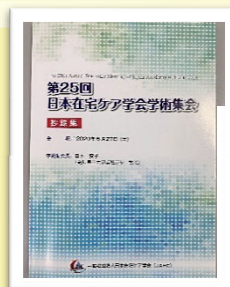
ワークショップ  
人材不足を救う・補う『ノーリフティングケア』



大野内科院長:小笠原望先生に住み慣れた地域でのいのちを仕舞うことの意味について考える機会をいただきました。



シンポジウム II では災害への備えについて高知県や岡山県の取り組みを全国に提案しました



多くの修了生に講師、座長、運営等にお力添えをいただきました。また、一般演題の紙上发表でも学術集会を盛り上げていただきました。



高知県立大学:森下安子先生にその人らしく地域で暮らすことを実現する多職種協働のもつ力と其の可能性について講演されました。



福井大学:上野栄一先生にテキストマイニングを活用して看護現象を可視化する方法について講演していただきました。



シンポジウム I では高知県の人口減少・高齢化地域での看取りの取り組みを全国に発信しました。



**ご寄付をいただいた方**

下記の皆様より寄付をいただきました。  
誠にありがとうございました。  
(敬称略 令和2年10月1日現在)

西山 純子様 (34期生)  
山田 薫様 (26期生)  
加来 明日香様 (12期生)  
佐々木 正子様 (5期生)  
高橋 久子様 (7期生)  
山崎 登代子様 (17期生)  
岡田 湊子様 (7期生)  
窪谷 由美子様 (24期生)  
福岡 恵美子様 (5期生)  
南 裕子様 (11期生)  
佐藤 美穂子様 (18期生)  
久常 節子様 (14期生)      他、4名の方

**看護相談室**

看護相談室は、12の専門領域が、  
高知県の保健・医療・福祉に従事する  
皆様方と共に、ケアの質を向上させる  
ことを目的としています。

<b>家族看護学</b>	* 長戸研究室 ☎ 088-847-8708 I. ケア検討会 11/5 (木), 1/21 (木) 18:30~20:30 Ⅲ. リカレント教育 9月3月を除く毎月第3金曜日 (修了生対象) 18:30~20:30
<b>精神看護学</b>	* 田井研究室 ☎ 088-847-8723 I. ケア検討会 9/17 (木), 12/17 (木), 3/18 (木) 19:00~21:00
<b>がん看護学</b>	* 藤田研究室 ☎ 088-847-8704 I. ケア検討会 第1回未定 第2回2/11 (木・祝) 13:00~15:00 II. 交流会 2/27 (土) Ⅲ. リカレント教育 第1回未定 第2回未定
<b>クリティカル ケア看護学</b>	* 大川研究室 ☎ 088-847-8703 I. ケア検討会 10/3 (土) 13:30~15:30 II. 交流会 未定 Ⅲ. リカレント教育 未定
<b>慢性看護学</b>	* 内田研究室 ☎ 088-847-8720 I. ケア検討会 8月頃 (日時調整中)
<b>小児看護学</b>	* 中野研究室 ☎ 088-847-8710 I. ケア検討会 (大学院事例検討会もしくは特別講義) 9月, 11月, 2月 *開催時期・内容は変更になる可能性があります。 IV. その他 赤ちゃん同窓会 11/3 (火・祝)
<b>母性・助産 看護学</b>	* 嶋岡研究室 ☎ 088-847-8707 II. 交流会 検討中
<b>地域看護学</b>	* 時長研究室 ☎ 088-847-8715 I. ケア検討会 6/22 (月), 7/30 (木), 12/15 (火), 2/12 (金) II. リカレント教育 6/12 (金), 8/4 (火), 11/6 (金), 12/17 (木)
<b>在宅看護学</b>	* 森下研究室 ☎ 088-847-8709 I. ケア検討会 10/14 (水), 12/9 (水) 18:30~20:30 II. 交流会 未定 Ⅲ. リカレント教育 未定
<b>老人看護学</b>	* 竹崎研究室 ☎ 088-847-8705 I. ケア検討会 11/10 (火), 2/9 (火) 18:30~20:30
<b>看護管理学</b>	* 久保田研究室 ☎ 088-847-8714 I. ケア検討会 10/9 (金), 1/8 (金) 18:00~20:30 II. 交流会&Ⅲ. リカレント教育 2/11 (木・祝) 14:00~17:00
<b>災害看護学</b>	* 山田研究室 ☎ 088-847-8716 I. ケア検討会 9/18 (金), 12/18 (金) 18:30~20:30 Ⅲ. リカレント教育 未定

**看護学部・看護学研究科の活動**

看護学部では、毎年、各専門領域ごとに  
卒業生、修了生、また地域の専門職者の  
方々との学びを共有する場として看護相談  
室を開催しています。  
今年度の予定が決定しています。  
ぜひ、ご参加ください。  
高知県立大学のホームページにも詳細が  
記載されていますので、ご覧下さい。



**寄付のお願い**

同窓会への寄付のご協力をよろしくお願ひいたします。  
寄付金は、同封の振込用紙にてお願ひします。ホームページでもご覧いただけます。  
ご不明な点はいつでもお問い合わせください。



**編集後記**

「特別な夏」と言われた今年、高知でも「よさこい祭り」の中止、猛暑、豪雨災害など、様々なことが例年と違う夏となりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。  
毎年開催しておりました、同窓会総会・懇親会を中止、総会を書面での開催としました。同窓生の皆様、ご連絡をいただきました同窓生の皆様には、大変ご不便をおかけしました。ご協力賜り、感謝申し上げます。  
看護学部でも、講義・演習・臨床実習など、新しい方法を模索しながら進めており、本号で取り組みを紹介させていただきます。ぜひ、ご意見をお寄せください。

池添・川本・西内

**事務局**

〒781-8515 高知市池2751-1 高知県立大学看護学部  
Fax: 088-847-8750

**ホームページアドレス**

高知県立大学  
<http://www.u-kochi.ac.jp/>  
高知県立大学看護学部  
<http://www.u-kochi.ac.jp/~kango/>

